

# 農業掲示板 2月



図1 畑の準備

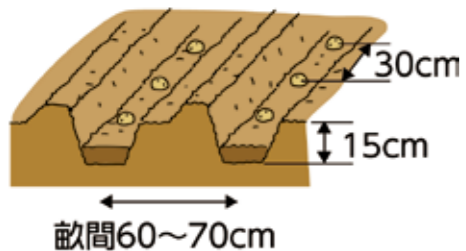


図2 種イモの切断

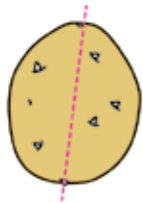


図3 芽かき

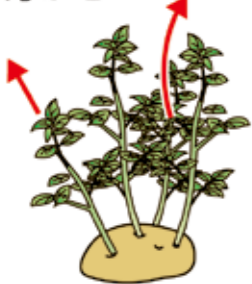


図4 追肥・土寄せ

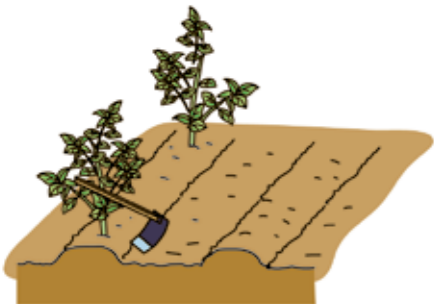
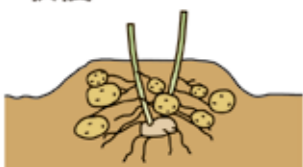


図5 収穫



休眠の明けた芽は5度程度で活動が始まるため、早植えして発芽した芽は遅霜の被害を受けます。生育適温は10〜23度で、冷涼な気候を好みます。

【品種】ホクホクした粉質の「男爵薯」「キタアカリ」や、アンデスの栗ジャガと呼ばれる「インカのめざめ」、ねっとりした粘質の「メークイン」「レットドムーン」など料理に向けた品種を選びましょう。秋作を行うには「デジマ」「ニシユタカ」など休眠の浅い品種を使います。

【畑の準備】植え付け2週間前に1平方m当たり苦土石灰50gを施しよく耕し、1週間前に、畝間60〜70cm、深さ15cmの溝を掘り、畝1m当たり普通化成肥料100gと堆肥1kg程度を施

し、土を戻してよく混ぜておきます(図1)。

【植え付け】種イモの大きさは1個30gくらいが良く、大きいイモは各片に頂部に芽が付くように3〜4片に縦切りします(図2)。切り口は、日陰で短時間乾かしておきます。元肥の上少し土を戻し、種イモの切り口を下にして、株間30cmに植え付け、7〜8cmの覆土をします。マルチ栽培をすると雑草を防ぎ、地温が上がるため収穫期が1週間程度早まります。この場合、種イモを植え付け後、黒色ポリフィルムを張り、芽先がフィルムを持ち上げたら、フィルムを破り上に出します。なお、発芽後の遅霜被害対策として、不織布のべた掛けがお勧めです。

【芽かき】芽が10cmくらいに伸びた頃、強い芽を2本残して他はかき取ります(図3)。

【追肥・土寄せ】芽が15〜20cmの頃、畝1m当たり普通化成肥料50gを畝の両側にまき、5cm程度の厚さに土寄せをします。2回目の土寄せは同じようにつぼみが付いた頃に行います。土寄せは十分し、イモの露出を防ぎます(図4)。マルチ栽培ではマルチの裾を上げて追肥をします。

【収穫】開花後2〜3週間で新ジャガを楽しめますが、葉が枯れ始めてから掘り取れば充実したイモになります。晴天が続いた日にイモを傷付けないように掘り取ります(図5)。イモは光で緑化するため冷暗所で保存します。

## ジャガイモ

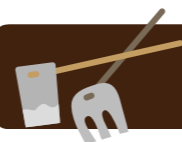
## 多様な品種を楽しむ

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています

園芸研究家 ● 成松次郎

例年、2月に開催しておりました「地区別営農相談会」につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とさせていただきます

# 農業掲示板 2月の農作業



## 土づくり

### 豊作の手はじめはまず土づくり

水稲をはじめすべての作物を栽培していくうえで、土づくりは重要な作業のひとつです。土づくりをすることで水はけや水もち、通気性、保肥力などの改善がはかれます。また、近年の集中豪雨や高温干ばつなどの異常気象の際にも、被害を最小限にとどめることが期待できます。今年産の作付を前に土づくりがまだ来ていない場合は、下記を参考に土づくりを行いましょう。

(作物別土づくり資材の施用量)

作物	資材名	施肥量(10a当り)
水稲	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)
	土力の達人	80kg
黒大豆 黒枝豆	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)
	ハレー28	200kg

作物	資材名	施肥量(10a当り)
山の芋	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)
	火カケイフン	300kg
	ハレー	200kg
	セルカ(又は苦土石灰)	100kg
小豆	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)



## 丹波篠山茶

### 整枝・寒害とその対策

#### 整枝

・秋整枝が行えていない茶園では、一番茶への古葉・枝の混入防止のため、春整枝を行いましょう。春整枝の時期は寒害の心配がなくなる時期(3月中旬頃)に実施し、刈り込む深さは秋整枝より浅くし、越冬した芽をなるべく刈り込まないようにします。深く刈り込むと芽数の減少による減収、摘採時期の遅れにつながるため注意しましょう。



#### 寒害とその対策

・青枯れ(寒干害)…寒風によって葉からの水分蒸散が促進されたり、低温による土壌・幹の凍結によって水分供給が絶たれ、水分の吸収と蒸散のバランスが崩れたときに発生します。葉が乾燥して光沢がなくなって青白く見え、さらに時間の経過や雨で酸化し、赤く変色、変形します。

・赤枯れ(凍害)…茶樹が強い低温(-10℃以下)に長時間さらされたり、初冬などの耐寒性のない状態で低温にあると葉が赤褐色になり、-15℃以下になると葉や枝が枯死します。

#### 〈対策〉

・これらの寒害の被害対策としては、防風ネット(網目2〜4ミリ程度)の設置が効果的です。土壌の凍結や乾燥、地温低下防止として敷きワラを敷設します。敷設の方法は、成木では畝間全体に、幼木では株元に敷設します。また、昨年のような、低温が予想される場合は防霜ファンを回すことにより症状を軽減できます。

・寒害被害が発生した場合は、赤焼け病を助長するので、被害を軽減するため銅水和剤(Zボルドーなど)の散布を行いましょう。また、むやみな刈り落としは控え、春整枝時期まで待つて被害葉の刈り取りを行いましょう。

今後の

24時間OK /

農業技術テレホンサービス  
電話:079-556-3384

1月15日 ▶ 1月28日

手軽でおいしい  
漬物の作り方

1月29日 ▶ 2月11日

春の野菜の  
栽培管理

2月12日 ▶ 2月25日

馬鈴薯の  
植え付けと管理

丹波篠山農産物相談・研究センター 開所日時:月・水・金の週3日 10:00~12:00 (ただし祝日・年末年始を除く)